



「これからの土木」をテーマにしたパネル
ディスカッション＝11日、八戸市公会堂

今後の土木の 方策を探る

八戸で「フォーラム」

「第10回青森土木フォーラム」が11日、八戸市公会堂で開かれた。「これから

の土木」を全体テーマに、
▽労働環境の改善▽女性と
若手の活用▽橋などの長寿
命化▽作業の省力化▽業界
のイメージアップの各課
題について、パネルディス
カッションなどを通じて今
後の方策を探った。

八戸工業大や八戸高専、
行政機関などで行う実行
委員会が主催。パネリスト
は国土交通省八戸港湾・整
備事務所の加藤訓生所長、
県女性建設技術者ネットー
ワーク会議の植村房恵会
長、八戸高専専攻科の馬渡
大壮さん、デーリー東北新
聞社報道部の今井崇雄記者
ら6人が務めた。

加藤所長が各テーマにつ
いて現状報告し、それにつ
いてパネリストが発言する
形で進行。女性活用では、
植村さんが「女性が働きや
すい現場に改善され、女性
技術者も着々と増えてい

る。今後は出産や子育て後
も継続して働ける仕組み作
りが必要では」と提唱し
た。

橋の長寿命化については
今井記者が「10年も通行止
めになる八戸新大橋の工事
は市民生活、経済への影響
が大きい。こうした工事は
なるべく避けるような技術
開発を進めてほしい」と指
摘。馬渡さんは業界のイメ
ージアップについて「外国
では土木は『カッコいい』
というイメージ。日本でも
そう思われるように工夫し
たい」と話した。

関連イベントとして12日
まで「はっち」で、ポスタ
ー展や子ども向けの体験学
習会なども開かれている。